第78号
平成９年７月25日発行

青森県水産増殖センター

センターだより



ホタテガイ採苗速報300号発行記念　　Ｈ９．７．３　於　青森県水産増殖センター

陸奥湾でのホタテガイ天然採苗に関する情報発信は、その起源を昭和42年（当センター発足前年）に杉の葉１体当りの付着稚貝数（990個／１体）を報じた「ホタテガイ採苗情報」まで遡ることができます。一方、定期刊行物としては、昭和50年に当センターが天然採苗の安定化・効率化を目的に「ホタテガイ採苗速報」を発行したのが始まりですが、数えて23年目の本年、通刊300号発行を迎えることができました。

この速報は、当センターのほか水産業改良普及所、漁協、漁協青年部・研究会、市町村等が協力して毎週ラーバ調査を行い、その結果をもとに作成されており、この官民一体となった全湾規模の調査体制は全国でも類を見ないものとなっています。

そこで、ホタテガイ採苗速報300号発行当日の７月３日、これまでの関係者の努力に感謝するため、むつ湾漁業振興会の後援により当センターにおいて採苗速報 300号発行を記念する会を開催しました。写真はその模様ですが、80余名の出席のもと、これまで採苗速報発行に協力してきた陸奥湾沿岸の12漁協、14漁業研究会、２市町村に感謝状の贈呈が行われ、出席者一同ホタテガイ漁業の一層の発展のため採苗速報のさらなる充実を誓い合いました。

目　次

新任のご挨拶 ……2
平成９年度事業計画と分担
　漁　場　部 ……2
　ほたて貝部 ……3
　貝　類　部 ……3
　魚　類　部 ……4
　海　草　部 ……4
新年度加入メンバーより一言 ……5
平成９年度水産増殖センター職員配置 ……6

活彩あおもり

発行　青森県水産増殖センター　青森県東津軽郡平内町茂浦☎0177－55－2155／印刷　㈱コーセイ印刷

新任のご挨拶



所長　**青　山　禎　夫**

来訪者に「水産増殖センターはどんな仕事をするところですか」と聞かれることがある。

勿論、増養殖についての試験研究と答えるが、仕事の内容を説明しているうちに、水産増養殖は一次産業ではなく二次産業として考えたほうが適切であり、昨今抱えている問題への対応も見えてくるような気がする。

漁業は漁獲物を「セリ」で売り終わる。何時どこで誰がどのように消費したか、食べられたときの消費者の反応はどうであったか、等にはほとんど関与しない（最近は少し考え方が変化して来てはいますが）。

さて、増養殖を二次産業と位置づけるとどうなるでしょうか。生産物は缶詰や冷凍食品と同じ性格を持つ製造加工品ということになります。

ここで見えてくることは、消費者が食べて（購入して）美味しかったか、満足したかが重大事だということです。即ち、増養殖生産物は高品質製品でなければならないということです。

青森県における水産増養殖対象種の多くは技術開発中のものが多く、まず、安定した生産を目指すことが課題ですが、その先は、成果品を冷徹なまでに客観的に評価することが必要だと思いますがいかがでしょうか。

水産増殖センターに多くの漁業者が訪れ、職員が多くの漁業者を訪れることを期待しています。

平成９年度事業計画と分担

漁　場　部



部長　**木　村　　大**

４月の人事移動により水産試験場へ転出された仲村前部長に代わり、漁業振興課から着任いたしました。昇任した三津谷研究管理員と今井主任研究員及び松原主任研究員の４名で調査を行いますので、よろしくお願いいたします。

主な事業と担当者は次のとおりです。

１．浅海定線調査

試験船「なつどまり」（濱田船長他４名乗組）により、陸奥湾の海況の特徴・経年変化を把握します。　（今井主任研究員ほか）

２．海況予報高度化技術確立調査

海況自動観測システムによる観測結果等を用い、陸奥湾海況情報の発行、ホタテガイ採苗速報等の基礎資料とするとともに、海況予報の精度向上を図ります。

（松原主任研究員ほか）

３．漁場保全対策推進事業

陸奥湾の漁場環境の維持を図るため、水質・底質・底性生物の現況を把握し、経年変化を調査します。　（今井主任研究員ほか）

４．貝毒被害防止対策事業

陸奥湾におけるホタテガイの毒化と原因プランクトンの出現動向等を把握し、下痢性貝毒の毒化予知手法を検討します。

（三津谷研究管理員ほか）

５．貝毒成分・有毒プランクトン等モニタリング事業

青森県沿岸の二枚貝の毒化状況と原因プランクトンの出現状況を把握し、二枚貝の安全性を確保するとともに、漁業者への影響防止を図ります。　（三津谷研究管理員ほか）

ほたて貝部



部長　**小　倉　大二郎**

４月の人事異動により、ほたて貝部もメンバーの交代がありました。漁政課へ転出された早川前部長に代わり、貝類部長により配置替えとなりました。また、小坂総括主任研究員が漁業振興課へ、田村技師が栽培漁業公社へ転出し、代わりに栽培漁業公社から青山研究管理員が、水産課（現漁業管理課）から三戸総括主任研究員が転入しました。留任の工藤総括主任研究員、川村技能技師ともどもよろしくお願いします。

本年の主な事業と担当は次のとおりです。

１．ホタテガイ増養殖試験

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等、ホタテガイ増養殖漁業の安定と効率化のための試験・調査を行います。（工藤総括主任研究員ほか）

２．ホタテガイ種苗の種苗性評価及び改善に関する研究

現状の種苗の実態を調査して科学的な評価を行い、良質な種苗を確保するための簡易で精度の高い評価方法を検討します。

（工藤総括主任研究員ほか）

３．高品質ホタテガイの安定生産技術開発研究（21青森推進事業）

高品質ホタテガイ生産のための育種技術の開発・実証試験、ヒトデの生態調査による天然採苗及び漁場管理法の検討等を行います。

（三戸総括主任研究員ほか）

４．海面養殖高度化事業

ホタテガイ養殖漁業の安定的発展をめざす総合事業で、センターでは陸奥湾内２ヶ所で「ホタテ養殖ごよみ」に基づいた養殖実証試験を行います。（三戸総括主任研究員ほか）

５．ホタテガイ増殖漁場評価試験（新規）

地まき増殖の生産回復に必要な各種要因を明らかにするとともに、放流用種苗の育成管理方法の改善を行います。

（三戸総括主任研究員ほか）

貝　類　部



部長　**須　川　人　志**

４月の人事異動でほたて貝部長に異動された小倉前部長に代わり貝類部長を勤めることになりました。また、伊藤総括主任研究員が水産試験場へ転出し、天野総括主任研究員が八戸水産事務所から転入しました。

貝類部のメンバーはアワビとナマコの仕事を主に担当することになった清藤技師を加えた３名で本年度の業務を進めますので、よろしくお願いいたします。

貝類部の主な事業と担当は次とおりです。

１．磯根資源の初期生態解明に関する研究（アワビ）

アワビ資源の回復・増大を図るため、天然漁場での餌料環境、食害生物や競合生物の影響等を調べ、アワビ発生初期の減耗要因に焦点をあてた研究をする。（清藤技師ほか）

２．放流技術開発事業（アワビ）

アワビ放流漁場の生物構造を比較検討し逸散、成長に影響する要因を調べ、集約的な放流技術の開発を図る。（清藤技師ほか）

３．地域特産種量産放流技術開発事業(ホッキガイ)

太平洋沿岸の重要資源であるホッキガイの安定生産を図るため、種苗の大量生産技術の開発を図る。（天野総括主任研究員ほか）

４．重要貝類増殖試験（サザエ）

日本海沿岸の重要資源であるサザエについて、早期採苗を中心とする種苗生産、放流等の試験を行い、増殖技術の開発を図る。

（天野総括主任研究員ほか）

５．ナマコ増殖管理技術開発試験

ナマコの栽培漁業を図るため、種苗生産の効率化と放流種苗による増殖技術の開発を図る。

（須川部長ほか）

６．カキ類増殖技術開発試験

カキ類の分布や成熟過程を調べると共に、日本海沿岸に生息する　イワガキに焦点をあてた増殖対策を種苗生産の面から技術開発を図る。

（天野総括主任研究員ほか）

魚　類　部



部長　**塩　垣　　優**

定期人事異動により、部員の定数削減と大異動がありました。

定数４から３と減りました。

横山魚類部長（３）と中西主任研究員（６）が肩を並べて内水面水産試験場へ、榊技師（１）が栽培漁業振興協会駐在と、茂浦を後にしました。（　）内の数字はそれぞれの魚類部在職年数です。

代わって、水産試験場から塩垣が横山部長の、内水面水産試験場から松坂主任研究員が中西主任研究員の後任として新たに配属され、留任２年目の兜森主任研究員との３名の小所帯を切り盛りしていく事となりました。経験年数少ない初々しい顔ぶれです。

土日、祭日、盆、正月なしの交代勤務の我々の強力な助っ人（非常勤労務員）は以下の４人です。

須　藤　尚　行（茂　浦）
平　澤　厚　子（小豆沢）
竹　内　八重子（茂　浦）
工　藤　美　和（小　湊）

我々共々よろしくお願いします。

魚類部の業務と担当は以下のとおりです。

放流技術開発事業（クロソイ）	平成７～11	兜森ほか
沿岸性異体類（マコガレイ）栽培促進技術開発事業	平成９～13	兜森ほか
養殖業普及対策事業（クロソイ）	平成７～11	兜森ほか
特定海域新魚種（マダラ）定着促進事業	平成７～11	
資源生態・放流技術		兜森ほか
種苗量産技術		松坂ほか
生物餌料の培養技術の開発研究	平成９～13	松坂ほか
電源立地地域温排水対策事業	昭和61～	松坂ほか
海産魚類の魚病防疫	平成９～	松坂ほか
ヒラメ育成用飼料開発試験	平成６～10	塩垣ほか
資源管理型漁業推進総合対策事業（トゲクリガニ）	平成７～９	塩垣ほか
ヒラメ黒化対策試験	平成６～	塩垣ほか

海　草　部



部長　**加　藤　徳　雄**

海草部は、定期人事異動で貝類部長に転出した須川海草部長に代って、漁業振興課から転入した新人の私（加藤）と、新採用の山内技師に２年目の吉田技師を加えた３名で２つの新規事業を含め本年度の事業を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

本年度の主な事業と担当者は次のとおりです。

１．海藻資源モニタリング調査（新規）

有用海藻の生育の状況及び生育環境を調べ資源変動について生物特性、海洋環境面から変動要因と予測方法を検討します。

（加藤部長ほか）

２．電源立地地域温排水対策事業調査

昨年度に引き続き、マコンブの水温等の環境変化とマコンブの再生産機構の関係を調査するとともに海藻の生育状況を調べます。

（大間：吉田技師ほか）
（白糠：加藤部長ほか）

３．コンブ発生量の変動要因解明研究

コンブ目植物の群落変動のうち生育場所で生じる付着基質の占有に関する海藻種間の競争、植食動物による捕食、海洋環境の影響等を検討します。　（吉田技師ほか）

４．磯焼け対策新技術実証事業

前年度に引き続き試験区における海藻群落の変遷を調査し、水温等の環境変化とマコンブ不漁との関係を調べ不漁の予測技術を検討します。　（吉田技師ほか）

５．バクテク種苗作出技術開発試験（新規）

日本海で藻場を形成するホンダワラ類などについて、組織培養手法で効率的な種苗作出培養条件を検討します。

（山内技師ほか）

６．日本海沿岸藻場造成技術開発事業

藻場造成を目的として、海中林施設、試験ブロックなどの効果を検討します。

（山内技師ほか）

７．エゴノリ養殖管理技術開発事業

前年度に引き続き外海域での養殖試験と所内で人工採苗技術研修を行います。

（山内技師ほか）

新年度加入メンバーより一言



■植　木　龍　夫

18年ぶりの水産増殖センターです。それまでは割合に小さな世帯におり、それなりの充実感がありました。しかし、増殖センターの間口と奥行きの広さに赴任当初は消化不足気味でした。これからは増殖センターの皆さんが充実感を味わえるような環境作りをしたいと思っています。



■木　村　　大

６年ぶり、２度目の増殖センター勤務となります。

当時に比べ見慣れない機器が揃い、その扱いに戸惑っております。早くこの環境になじみ、現場調査に参加したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



■塩　垣　　優

鰺ケ沢の３年間は、雨にも、雪にも、風にも負けずの生活でしたが、今度は電車通勤と高度な生活へ転換です。

仕事の方もそうありたいものです。



■加　藤　徳　雄

当センターは、５年ぶり２度目の勤務となりますが、海藻についての試験、研究についての業務は初めての経験となります。

私も、今年度、新規事業と継続事業を担当することになり、少し緊張しておりますが頑張りますのでよろしくご指導をお願いいたします。

■青　山　宝　蔵

階上町駐在からこのたび水産増殖センターにもどりました。

ホタテガイ漁業について、約20年ぶりに手を染めることになりました。

当時とどう変ったかよく見ていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



■天　野　勝　三

水産増殖センターに14年ぶりに回帰してきました。新芽が出て花開くかどうか？暖かく見守って下さい。



■三　戸　芳　典

16年ぶりに水産増殖センターほたて貝部に配属になりました。16年前にくらべると、センターは施設や機器が最新のものになり、『時代の流れ』を感じています。



■松　坂　　洋

10年ぶりに増殖センターに帰ってきました。庁舎も新しくなり、10年間海水から離れていたこともあっていろいろ戸惑うことがありますが、早くなれて頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。



■山　内　弘　子

４月１日付けで採用になり、念願の水産増殖センター海草部に配属させていただくこととなりました。分からないことが多く、皆さんにご迷惑をおかけすることと思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

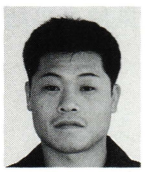


■里　村　典　彦

この度、４月の定期人事異動により、当センター総務室に勤務になりました。平成５年の新採用以来、ずっと水産部に籍を置いておりますが、試験研究機関での勤務は今回が初めてであります。

仕事は給与をはじめ一般庶務ということですが、慣れない部分も結構多く、毎日が勉強の連続です。

経験豊かな総務室長と先輩職員のもと、１日も早く仕事を覚え、センターの職員としてがんばって参りたいと思っておりますのでよろしくお願いします。



■須　藤　　覚

新たな仕事、心機一転頑張りますのでよろしくお願いします。

平成９年度水産増殖センター職員配置

- 所長（青山禎夫）
- 次長（植木龍夫）
  - 総務室長（本多　信雄）― 松山英春総括主査、荒田茂主査、里村典彦主事、和田幸市技能技師、盛善道技能技師、鹿内満春技能技師
  - 漁場部長（木村　大）― 三津谷正研究管理員、今井美代子主任研究員、松原久主任研究員
    - 試験船なつどまり（濱田勝雄船長）― 長津司機関長、吹越弘光甲板長、逢坂健幸機関員、須藤覚甲板員
  - ほたて貝部長（小倉大二郎）― 青山宝蔵研究管理員、三戸芳典総括主任研究員、工藤敏博総括主任研究員、川村要技能技師
  - 総括研究管理員 貝類部長事務取扱（須川　人志）― 天野勝三総括主任研究員、清藤真樹技師
  - 魚類部長（塩垣　優）― 兜森良則主任研究員、松坂洋主任研究員
  - 海草部長（加藤　徳雄）― 吉田雅範技師、山内弘子技師
  - 階上町駐在 ― 榊昌文技師
  - 栽培漁業公社派遣 ― 田村眞通総括研究管理員、田村亘技師